

# 日本儒教学会 2022 年度大会プログラム

日 時：2022 年 5 月 22 日（日）10:00～17:30

会 場：早稲田大学小野記念講堂（東京都新宿区戸塚町 1-103 早稲田大学 27 号館地下 2 階）

および並行してオンライン開催

※オンライン参加の場合、ミーティング ID 等をお知らせするために事前登録が必要です。登録方法は学会 web サイトに記載致しますので、ご確認ください。

形 式：ハイブリッド形式（対面形式とオンライン形式の併用）

交 通：地下鉄東京メトロ東西線 早稲田駅 3a・3b 出口から徒歩 5 分

※web サイトに早稲田駅から小野記念講堂にかけての周辺図を掲載しています。

都営バス 早稲田バス停・早大正門バス停から徒歩 3 分

費 用：徴収致しません。

また、新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、懇親会は開催致しません。

受付開始 9:30

## 研究発表（午前の部） 10:00～12:00

10:00～10:30 田村 有見恵（東京都公立学校）

「王安石の窮理、盡性、至於命—『老子注』を中心に—」

司会：吾妻 重二（関西大学）

10:30～11:00 胡 華喩（東京大学大学院）

「元末汪克寛における「継春加王」に関する言説の捉え方」

司会：三浦 秀一（東北大学）

11:00～11:30 志村 敦弘（東洋大学博士後期課程満期退学）

「王守仁思想における「簡易」説の意義」

司会：永富 青地（早稲田大学）

11:30～12:00 廖 嘉祈（東京大学大学院）

「「封建世界」における党争の捉え方

—水戸学者・会沢正志斎や藤田東湖を中心に—」

司会：白井 順（東洋大学）

## 昼休み 12:00～13:30

12:00～12:30 評議員会（関係者のみ）

## 研究発表（午後の部） 13:30～14:30

13:30～14:00 田中 豊（関西学院大学研究員）

「中江兆民と J・S・ミルー『民約訳解』における「議」の儒学的意義—」

司会：山本 正身（慶應義塾大学名誉教授）

14:00～14:30 梶田 祥嗣（流通経済大学専任講師）

「三宅雪嶺と儒教—孟子観を中心に—」

司会：山本 正身（慶應義塾大学名誉教授）

会員総会 14:30～14:50

シンポジウム 15:00～17:30

詳細は次頁をご覧ください。

## いま儒教について語ること —孔子没後 2500 周年を記念して—

### 趣 旨

今年 2022 年は孔子の没年とされる前 479 年の 2500 年後にあたる。孔子その人の歴史的実像については新出の出土資料なども使って国内外で多様な研究がなされているが、本学会では孔子が現在どのように語られ演じられているかという切り口から「儒教のいま」を考える。

報告者は 3 人。井ノ口哲也氏は著書に『後漢経学思想研究序説』（勉誠出版、2015 年）・『入門中国思想史』（勁草書房）がある漢代思想研究者。今年出版された『道德教育と中国思想』（勁草書房）で高校「倫理」教科書の各社版を比較検討している。水口拓寿氏は著書に『儒学から見た風水—宋から清にいたる言説史』（風響社、2016 年）・『中国倫理思想の考え方』（山川出版社、2022 年）などがある風水思想・術数思想の研究者。孔廟祭祀の研究もしており、現地調査の経験をふまえてその現状を語ってもらう。福嶋亮大氏は『復興文化論—日本の創造の系譜』（青土社、2013 年）・『厄介な遺産—日本近代文学と演劇的想像力』（青土社、2016 年）など多数の著書を持つ中国近現代文学研究者・文芸批評家。昨年刊行された『ハロー、ユーラシア—21 世紀「中華」圏の政治思想』（講談社）で春秋学の視点から香港問題を分析した。

3 氏からの報告のあと総合討論の時間を長めにとり、これら異なる 3 つの視点を絡め合わせながら儒教の「いま」について参加者とともに思索を深めていきたい。

報 告：井ノ口 哲也（東京学芸大学）  
「高校「倫理」教科書のなかの孔子」

報 告：水口 拓寿（武蔵大学）  
「孔子廟から見える儒教」

報 告：福嶋 亮大（立教大学）  
「春秋学の視点と「中華」」

司 会：小島 毅（東京大学）